

老後に備える

連載 第1回

定年後に必要なお金について

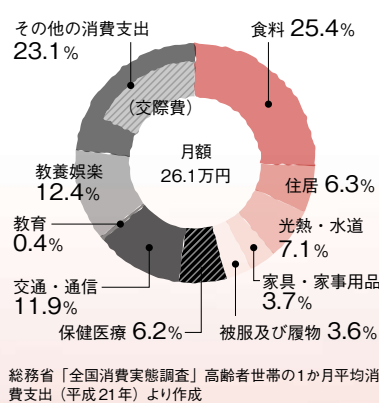
老後とはいつから始まるのでしょうか。
 仕事から引退したとき？
 それとも年金を受給するときからでしょうか？
 老後に対するイメージは人それぞれですが、
 いずれ誰にもやってくる老後の生活。
 それが遠い未来の人も、近い将来の人も、
 身近なテーマとして考えてみませんか。
 今回は、高齢者世帯の生活費や所得に
 関するデータをみながら、
 定年後に必要なお金についてみてみましょう。

老後の暮らしを考えると、収入が現役のときより減ってしまうことや、病気や怪我などで医療費用が増えてしまうかもしれないことなど、不安が先立つ方も多いことでしょう。
 そこで、漠然と心配するのではなく、調査データなども参考にしながら、具体的に考えていきたいと思います。

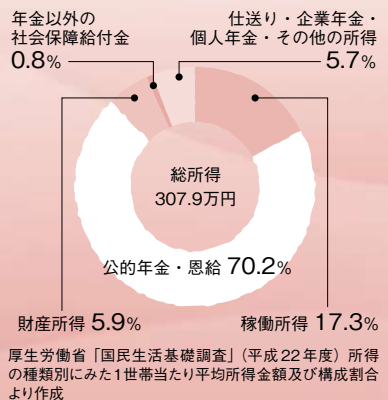
細くなることを考えればある程度は計算できるはずですが。また、住居費も予測しやすい支出です。
 生命保険文化センターが行った意識調査によると、夫婦二人で老後生活を送る上で必要だと考える最低限の日常生活費はひと月平均22・3万円、ゆとりある老後生活を送るためにはそのほかに14・3万円を上乗せし、平均36・6万円という結果でした（生活保障に関する調査「平成22年度」）。
 また、総務省の調査によると、高

齢者夫婦世帯（夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの世帯）の1か月の消費支出（約26万円）の内訳は左のグラフのようになっています。食費と並んで、教養娯楽費と、交際費などの、その他の消費支出への支出が多いことがわかります。

逆に子どもはもう巣立っているため、教育費はほとんどかからないほか、（あくまで平均値ですが）保健医療費は光熱・水道費などと同じ程度にとどまっています。



一方、高齢者世帯の所得の内訳はどのようになっているでしょう。厚生労働省の調査によると、高齢者世帯の（年間）総所得307・9万円のうち、公的年金が約70%を占めています。



老後の生活設計を考える上では、どれくらい公的年金がもらえるかを把握しておくことが大切です。まずは「ねんきん定期便」をみたり、日本年金機構の相談窓口などに問い合わせしておおよその金額を確認しましょう。

そして、将来にわたる物価の動きや財政状況など年金をとりまく外部環境にも関心を寄せながら、老後に備えるお金について考えていきたいと思います。

今回は、病気のときに役立つ医療保険について取り上げる予定です。

【日本年金機構 全国の窓口】
<http://www.nenkin.go.jp/office/index.html>
 【日本年金機構 ねんきんネット】
http://www.nenkin.go.jp/r_net/index.html